

# 明日香をさぐる

## あさがおニユース No.3

今回は牽牛子塚古墳の整備に使用した滝ヶ原石の切り場について紹介したいと思います。

滝ヶ原石は石川県小松市の滝ヶ原町で採石される緑色凝灰岩です。滝ヶ原石は古くから知られた石材で、金沢城や小松城などの石垣にも利用されるなど、江戸時代には北前船で全国各地へと運ばれました。滝ヶ原地区では文化十一(1814)年から石の切り出しが始まっており、滝谷口大滝丁場、西山丁場、本山丁場の3ヶ所で石切り場が確認されています。現在は本山丁場のみ採掘が続けられています。本山丁場では現在大型の電動ノコギリで採掘が行われており、300m以上真つ直ぐに続く姿はまるで地下宮殿のようです。隣接する石切り場跡では藩政時代から明治時代にかけて人力で掘削した採掘坑も残されています。滝ヶ原石は建築や墓石、寺社の鳥居な

どの石造物、アーチ型の石橋にも使用されています。本山丁場には丘陵の南側斜面に幅約7m、高さ約12mの巨大な坑道が開口しています。入口から6m程度進むと「Yの字」状に分かれており、左側の坑道に進むと、壁面に大きな樹木の化石が横たわっています。そこから段上に石段を登り進むといくと高さ約3mの坑道が現れます。さらに奥へと進んで行くと坑道の最奥部に到達します。牽牛子塚古墳の石材はこの地点から採掘されたもので、2500枚の良質な緑色凝灰岩が使用されています。「滝ヶ原石」は『珠玉と歩む物語』小松く時の流れの中で磨き上げた石の文化として日本遺産に認定されています。

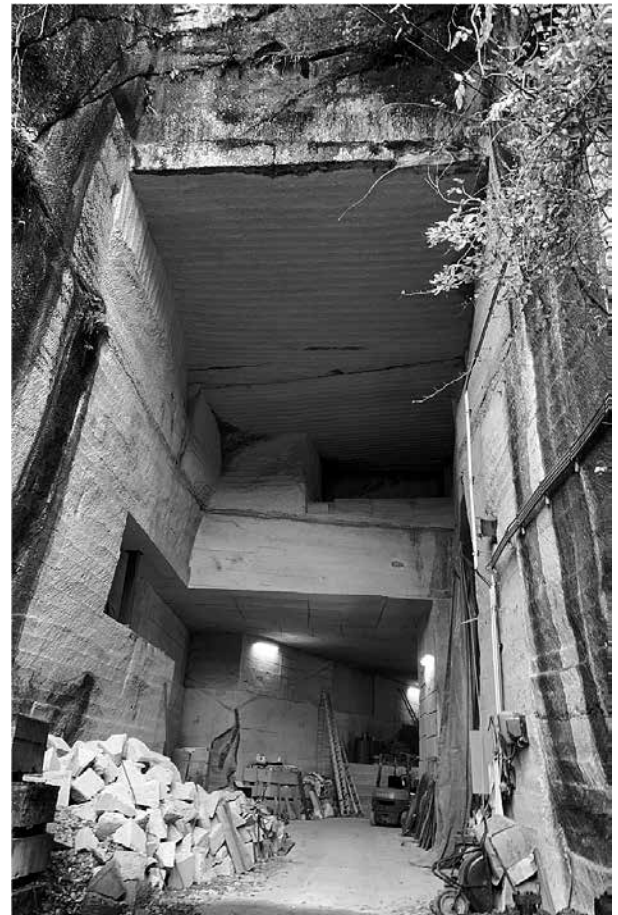
(明日香村教育委員会文化財課)



坑道内の様子



牽牛子塚古墳に使用された石材の採掘地点の様子



本山丁場 入口付近